

## 日米国際航空シンポジウム 宿利会長ご挨拶

皆さま、こんにちは。運輸総合研究所（JTTRI）会長/ワシントン国際問題研究所（JITTI USA）会長の宿利正史です。

ご多用の中、本シンポジウムにご参集いただきました皆さま、また、オンラインでご視聴の皆さま、特に時差にも拘わらず、地球の裏側の日本からご視聴の皆さまに、心から感謝申し上げます。

また、日米関係の要諦を担うご公務にご多忙を極める中、ご参加を賜りました山田重夫 駐米日本国特命全権大使に厚く御礼申し上げます。

続いて、基調講演を賜ります、

- ・ヘイディ・ゴメス 米国国務省次官補代理（運輸）
- ・中山 理映子 国土交通省大臣官房審議官（航空）
- ・シンディ・バラバン 米国運輸省次官補代理（航空・国際）

の3名に心から感謝申し上げます。

また、

・遠路シンガポールから、2009年から2015年まで民間航空庁長官を務められ、現在は主に国際場裡でご活躍のヤップ・オン・ヘン シンガポール運輸省顧問、

- ・東京からは、田村 明比古 成田国際空港株式会社 代表取締役社長

をはじめ、日米 ASEAN の航空分野を代表する官民のパネリストの皆様、ご参集をいただき誠にありがとうございます。

なお、パネルディスカッションのモデレーターは、日米航空関係に精通しており、現在、ワシントン DC で航空政策の専門家として活躍するナヴィーン・ラオ氏です。どうぞよろしくお願いたします。

本日のシンポジウムは、私ども運輸総合研究所の米国拠点であるワシントン国際問題研究所の主催により、「全米桜祭り」の公式イベントとして開催致します。このシンポジウムが、桜の一番美しいこの季節に開催されることをこの上ない喜びに存じます。

一方、誠に残念なことながら、最近になって、世界中で大きな航空機事故が相次いでおります。本年1月29日には旅客機とヘリコプターが関係する事故が発生し、多くの人命が失われました。犠牲となられた方々のご冥福を、ポトマック河畔の桜と共に心よりお祈りいたします。

さて、JITTIでは、2019年にワシントンDCと東京で国際航空シンポジウムを開催し、アジア・太平洋地域の航空ネットワークの拡充とそのための日米両国の役割について議論を行ないました。

また、2023年の日米国際航空シンポジウムでは、世界中の航空関係者にとって喫緊かつ最大の課題である脱炭素化政策の意義や問題点、持続可能な燃料(SAF)調達に焦点を当て、航空サステナビリティの実現に向けて議論を行いました。

新型コロナ感染症によるパンデミックは、世界的な人的交流に著しい制約をもたらしましたが、今日の航空需要は、多くの地域で既にパンデミック前の水準を超えております。また、回復が相対的に遅れていたアジア・太平洋地域でも、間もなくパンデミック前のレベルに戻り、2025年には世界の座席供給増加分の半分以上を占め、世界の経済成長を牽引すると想定されています。

他方で、ウクライナ情勢に見られるような、歴史的なパワーバランスの崩壊に端を発する国際情勢の変化により、アジア・太平洋地域の二大国間の航空便が制限される等、航空業界を取り巻く環境は一層不確実性を増しています。同地域における航空コネクティビティの強化は、このような地政学的リスクに対応し、経済安全保障を確保する観点からも死活的に重要な課題と言えます。

このような背景の下、本日のシンポジウムでは、世界の成長センターともい  
うべき ASEAN の航空市場の拡大を背景として、アジア・太平洋地域に属する  
航空当局の政策、空港インフラの整備、航空会社の取組みや戦略等、日米  
ASEAN の連携による航空コネクティビティの強化に向けた議論を展開いただ  
きたいと思います。

また、その実現のために不可欠な方策、

- ・まずは安全の確保、
- ・日米に共通する航空管制キャパシティの向上、
- ・グランドハンドリング等空港関係業務における人材の確保、
- ・SAF 調達を含む環境負荷軽減策や持続可能性の確保、

について、政府当局や航空会社の皆様の真摯な議論を期待します。

最後に、本日のシンポジウムが、今日の国際航空が直面する諸課題の解決に  
貢献すること、日・米・ASEAN 三極の開かれた形での連携発展に繋がること、  
即ち、同志国との連携による「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP) の実現  
を祈念しまして、私の挨拶といたします。本日は誠にありがとうございます。

(以上)